

様式第4号（第6条関係）

令和6年5月29日

富士見市議会議長 田中 栄志 様

議員名 伊勢田 幸正

### 行政視察・研修（政務活動）報告書

下記のとおり、行政視察・研修（政務活動）を実施しましたので、報告いたします。

#### 記

1 期 間 令和6年5月16日（木）～18日（土）（泊3日）

2 参加者名 伊勢田 幸正

3 場所（行政視察地・研修場所）

5月17日 愛媛県今治市及び松山市

4 調査・研修概要

<今治市> 地域公共交通について

今治市で行われている交通施策について話を伺った。

○地域乗合タクシーについて

・導入経緯

利用者の減少・ドライバーの担い手不足から「路線バス」の維持が困難となり、生活の足を確保するため代替手段が必要になった。

バス路線廃止地域の方々とワークショップを行い、代替交通を乗合タクシーに決定した。運行方法もワークショップで決定した。

・実施する活性化協議会には自治会・老人会・民生委員などに参加してもらっている。

・「電話」による事前予約制の乗り合いタクシーで予約がなければ運行しない。

- ・指定の場所で乗降する仕組みである。
- ・協議会から運行事業者へ委託料（タクシー実車分＋1万5,000円）を支払い、運賃は協議会の収入になる形である。
- ・10月に利用率向上に向け、朝倉地域について1日の本数を3往復から6往復に、運行日も週3日から6日に増やす、乗降場所も12か所から100か所に増やすなどの取組が予定されている。

#### ○ちよいそこおおみしまについて

- ・大三島で実施している乗合タクシーである。ウェブまたは電話での予約で行われ、圧倒的に電話での予約が多い。
- ・令和4年度に愛媛県がデジタル田園都市国家構想交付金を活用して実証実験を開始した。令和5年度から今治市が引き継いでいる。
- ・毎月200人前後の利用がある。利用者の9割弱が女性、80代、70代の利用が多いという傾向にある。買い物による利用が多いという。

上記2件の取組による行政コストの削減としては、従来、路線バスに4,000万円強の補助金を出していたのが、乗合タクシーへの補助、小中学生のためのスクールバスの増加に変わり、令和5年度の実績として約1,500万円の削減効果があった。

#### ○相乗り交通サービスm o b iについて

令和5年1月から運行開始し、現在、令和7年1月まで「実証実験」で行われている。

アプリまたは電話で予約し、AIが経路を選定し、エリア内の決められた定点から定点までの移動を乗り合いで行うものである。料金は月額5,000円で乗り放題、または回数券・単発利用がある。

- ・アプリによる利用が多く、また幅広い年代で使われており、若い世代の利用も多いのが特徴である。
- ・（全国でも幾つかの場所で実証実験が実施中であるが、）今治市で実証実験が行われることになった経緯としては、m o b iの社長がFC今治の岡田オーナーとつながりがあったことが一番の理由と思われる。
- ・行政からは補助金を出していない。（昨年度、車内のサイネージに、市制20年記念の広告を100万円程度支出はした）
- ・行政の協力としては、
  - ①アプリの登録・使い方の説明を地域振興課で対応する
  - ②地域で実施しているスマホ教室をm o b iエリア内で開催する場合、昨

年度から題材の一つにする

③岡山理科大学獣医学部の新入生ガイダンスでパンフレットを配布するなど広報面での協力がある。

- ・今後、行政窓口でのパンフレット設置、広報いまばりへの掲載、市の広報TV番組で周知など広報面での協力を行っていく。
- ・補助金を出していないので詳細は不明であるが、トータルではまだ赤字であり、会員の増に加えて、サイネージ広告などで財源を確保する必要性などが課題であるという話があるとのことだった。
- ・m o b i も利用が多く、運転手にとっては一般のタクシーと比べると負担は大きいかもしれないとのことだった。

#### <松山市>松山市大規模建築物の節水対策に関する条例 雨水活用への補助制度について

##### ○松山市の水事情

松山市は人口50万弱の四国最大の都市であり、中核市であるが、

- ・温暖な瀬戸内海機構であり、年間の降水量は全国平均より少ない
- ・川は短く、山は急峻であり、降った雨はすぐ海に流れる地形である
- ・石手川ダムの容量が昭和30年に人口37万人を想定して建設されるなど、構造的に水不足に陥りやすい環境にある。

3年に2回は何らかの渇水対策を行っており、また平成6年には石手川ダムが一時「底水ゼロ」となるなど4か月にわたる水不足があり、給水車による対応や給食でもパン・牛乳・デザートのみで、食器を洗わないで済む対応など節水型給食がとられるなど市民生活に深刻な影響をもたらし、この時の記憶が多くの市民に残っている。

そのようなこともあり、「節水」への市民の意識が高く、雨水の活用についても同様に意識が高いという事情がある。

##### ○大規模建築物の節水に関する条例（平成17年4月施行）

対象建築物（延べ面積1,000㎡以上）については、市に節水計画を提出し、節水型機器と雨水貯留設備を設置することを義務付けている。

##### ○節水対策の具体的内容

節水型機器…メニューの中から選ぶもので、水洗便所、浴室、台所等に節水

型機器等を設置するもの。

雨水貯留設備…雨水を有効利用するための貯留槽を設置するもの。(なお容量については特に定めていない)

#### ○履行担保策等

- ・ 条例に従わない場合は、建築主の氏名を公表（実例はない）
- ・ 10 m<sup>3</sup>を超える雨水貯留施設の設置には補助金を交付
- ・ 優秀な取り組みに対しては表彰（11件の実例があり）

#### ○補助金の利用実績

助成制度の利用実績は、平成12年度から令和6年2月末現在で、

- ・ 中規模雨水貯留施設は累計285件、補助金額累計56,144,000円
- ・ 大規模雨水貯留施設は累計22件、補助金額累計29,599,000円である。

本条例により、令和5年4月1日現在、582件、4,981.3 m<sup>3</sup>の容量が確保されている。

例としては、マンションの建設などに補助金制度が利用され、60トンのタンクの設置で半額300万円が補助されている例が多いとのことだった。

## 5 感想及びまとめ

### <今治市>

今治市で話を伺った3つの交通施策は、タクシー会社の協力で行われているが、タクシー会社も運転手の高齢化が進むなど課題があるとのことだった。また一般のタクシーの方がもっと利益を上げられるのでは、との考えもあるとの話であった。

農業を営む方を中心に高齢者でも自分で運転する方も多く、利用の向上が課題であった。

バスの運転手に代わる人手の確保策にタクシー会社と考えていたが、それも限界が来る時があるかもしれない。自動運転などの研究の必要性を感じたところである。

### <松山市>

地域の治水力を強めるために雨水タンクの設置を事業所または住宅に広げるためには何が有効か、を確認するために訪問した。

松山市は水不足対策という面が強いものの、市民向けには年間50数件、多

い時には100件と本市と比べても多数の補助実績があった。

企業の事情等を踏まえ、あえて容量は定めず、少しでも雨水タンクを設置してもらおうという観点で取り組みが行われていた。最近はSDGsの面からも取り組む企業もあるとのことだった。

産業団地進出企業等には、SDGsの観点から促すことが有効であると考えられる。松山市のように条例制定も一つの手段ではと考えるところである。

松山市も参加し、市内で過去に大会も開催された雨水ネットワークの紹介もいただいた。参加している自治体の多くは治水について試行錯誤しているようであり、本市でも参考になるものがあるかもしれないので、注視したいと思う。

\*行政視察に関する調査書、概要、参考資料等は、会派等にて保管